

ロシア連邦法人PAO NOVATEKとの 戦略的協力協定を締結 ー脱炭素化に向けたロシア国内の 日本企業のビジネス展開を支援



株式会社国際協力銀行は、9月2日、ロシア連邦（以下「ロシア」）法人PAO NOVATEK（以下「ノバテック」）との間で、ロシアにおける脱炭素化に向けたプロジェクトにかかる協力推進を目的とした戦略的協力協定を締結した。世界的な脱炭素化の潮流の下、水素、アンモニア、CCS・CCU・カーボンリサイクル及び再生可能エネルギーに関する情報・意見交換を通じて、脱炭素化に向けた日本企業のビジネス機会の創出や、日本への安定的な資源供給に繋がることが期待される。

記事参照：ロシア連邦法人PAO NOVATEKとの戦略的協力協定を締結 | JBIC 国際協力銀行
(2021.9.2/株式会社国際協力銀行)

先住民が主導した新しい研究： 氷の減少がアザラシ猟に及ぼす 影響を記録



海氷の減少により、アゴヒゲアザラシを捕獲できる期間が大幅に短縮されたため、アラスカ北西部のイヌピアット族の人々は、収穫量の圧縮や慣習の変更を余儀なくされている。これは、コッツェビュー地域の先住民に研究プロジェクトのリーダーとしての役割を与える新しいプログラムから生み出された最初の研究であり、最近発表された研究結果に詳細が記載されている。

記事参照：A new Indigenous-led study documents how ice loss is changing seal hunts - ArcticToday (2021.9.6/ARCTIC TODAY)



→A bearded seal sits on the ice edge in Kotzebue Sound. (Jessie Lindsay, NMFS MMPA Permit No. 19309)

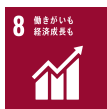
北海道開発局、北海道港湾 2050ビジョン 北極海航路の拠点に



国土交通省北海道開発局はこのほど「北海道港湾2050—クリーン&デジタル社会を創る北海道港湾」を公表した。2050年の北海道港湾のあるべき姿を取りまとめたもので、地理的優位性を活かし、北極海航路のアジア側の拠点となることやカーボンニュートラルポート（CNP）の実現、港湾区域内外での「洋上風力ベルト地帯」の形成などが示された。

記事参照：北海道開発局、北海道港湾2050ビジョン。北極海航路の拠点に|日本海事新聞 電子版 (jmd.co.jp) (2021.9.6/日本海事新聞)

ヨーロッパでのアザラシ製品の 禁止に苦しむ村々



EUでは、イヌイットが伝統的な狩猟で生産したものしか輸入を認めておらず、それ以外の自給自足のアザラシ狩猟者たちから経済的・文化的なライフラインを奪っている。

記事参照：How Europe's ban on seal products turned frontier communities into pariahs - ArcticToday (2021.9.8/ARCTIC TODAY)

グリーンランド東部の町で 暴力事件が多発、アルコール が禁止される



グリーンランド自治政府は一連の暴力事件を受けて、Tasiilaqの町でのアルコール販売を2週間禁止することを発表した。グリーンランドの東海岸に位置する人口2,000人弱のこの町の警察では、先週初めの3日間で、2件の自殺、4件の自殺未遂、1件のレイプ、15件の家庭内暴力を記録した。

記事参照：Alcohol is banned in an east Greenland town after a surge of violence - ArcticToday (2021.9.7/ARCTIC TODAY)

アラスカのCOVID-19入院者数 記録更新し続け、新たに846例 の報告



COVID-19で入院したアラスカ州民の数は木曜日に206人に達し、今週の記録を次々と更新している。また、新たに846人のウイルス感染者が発生し、そのうち809人がアラスカ住民で、残りは州内で陽性反応が出た非居住者である。これは、昨年3月に州がウイルスのモニタリングを開始して以来、1日の患者数としては最高レベルである。

記事参照：Alaska's COVID hospitalizations keep breaking records, 846 new cases reported - Alaska Public Media (2021.9.9/Alaska Public Media)

ハイブリッド電気機関を搭載した豪華客船が北極点に初到達



月曜日の朝、ポナン社のクルーズ船「ル・コマンド・シャルコ」は、スバル諸島のロングイヤービンを出港してからわずか数日で、北極点に到着した。ポナン社の新しいクルーズ船は、ポーラークラス2の耐氷性船体に、LNGエンジンを搭載したハイブリッド電気機関で航行する、観光業界では初めての船。LNG（液化天然ガス）を燃料とすることで、重油を燃料とした場合に比べて排出ガスを大幅に削減することができ、海岸線や自然保護区域での航行に適した環境性能を備えている。

記事参照：A hybrid-electric luxury cruise ship has reached the North Pole for the first time - ArcticToday (2021.9.9/ARCTIC TODAY)



The Ponant ship Le Commandant Charcot reached 90 degrees North on Monday, September 6. (Ponant via The Independent Barents Observer)

ノバテック社の新たな北極圏ライセンス地域は、自然保護区内



ノバテック社のリーダーであるレオニード・ミケルソン氏は、今年初め、ヤマル半島の天然ガス田の追加ライセンス取得をクレムリンに要請した。同氏によれば、ノバテック社が新たな北極圏プロジェクトを成功させるためには、これらガス田の資源が不可欠だという。

記事参照：Novatek's new Arctic license areas are located in a protected nature reserve | The Independent Barents Observer (thebarentsobserver.com) (2021.9.9/The Barents Observer)

米下院議会が北極圏保護区を掘削から守る調整法案を可決



下院天然資源委員会は木曜日遅くに、アラスカの北極圏国立野生生物保護区を石油やガスの掘削から保護することを含む、より広範な予算調整法案を可決した。この法案は、気候変動対策に重点を置いた大規模な支出法案に含まれている。

記事参照：U.S. House panel passes reconciliation bill protecting Arctic reserve from drilling - ArcticToday (2021.9.10/ARCTIC TODAY)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。今回のVol.10は、2021年9月のニュースを主に掲載しています。



Arctic Challenge for Sustainability II

